

# 「 万 年 N e w 」

東芝セラミックス(株)

取締役社長 藤 井 昭 弘

この夏の総会で初めて理事会のメンバーに加えていただいた。勿論この道は素人である。にもかかわらず、いきなりの巻頭言とくれば、少々の見当外れはお互い覚悟のうえということにしていたらこう。

さて、素朴な疑問がいっぱいある。

「ニューガラスってなに?」「10年前の“New”は今でも“New”?」「当社のビジネスにはニューガラスの類はあるか?」「いったい当社にはこのフォーラムの会員の資格はあるのか?」等等など。

そんなことを研究所で喚いていたら、技術者の一人が部屋の隅から何やらゴソゴソ取り出してきた。

「これなんかニューガラスと言えるかもしれません。」

聞けば、石英ガラス中のSiをAlで置換したものだという。 $Al_2O_3$ とAl-Siの複合体で、組織はパーライト状をしており極めて緻密。

「金槌で叩いても壊れません。“アルクォーツ”と名付けて数年前に特許も取りました。学会等でも一時かなり騒がれたんですが…」

「それで用途は?」

「まだ見つかっていません。社長、何かありませんか?」

なるほど、これは紛れもなくニューガラスだ。

以前、ファインセラミックス関係の機関誌に「この世界では発明が必要を求めてウロウロしている」と書いて顰蹙を買ったことがあるが、新素材共通の悩みがここにもあった。某硝子会社の幹部の方がいみじくも言うておられた。「当社では利益率〇〇%以下のものをニューガラスと呼んでいきます。」と。

まあ、この発言の裏には、まだまだオールドガラスが儲かっているとの含みがあるのだが、そのうちガラスの世界も高齢化の波が押し寄せてくるだろう。

当フォーラムが誕生して既に10年が経つと聞く。半導体の機能/コスト比は、10年で1000倍に及ぶとのこと。技術の進歩の時間軸は対数目盛であり、20年では100万倍である。10年前の“New”が今や働き盛り、次の10年に向かっては“Newest”が目白押しに出番を待っている…関係業界をそんな状態に導くのが当フォーラムの使命ではないかと思うのだが、果たして現状はいかなるものであろうか。

今、私は毎日“アルクォーツ”を机の上に置いてニラメッコをしている。何とかコイツを“万年New”の仲間から脱退させてやれないものかと。